

(様式2) 平成 25 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572706323		
法人名	社会福祉法人 横手福寿会		
事業所名	グループホーム ひだまりの家		
所在地	秋田県横手市増田町吉野字梨木塚101-1		
自己評価作成日	平成25年10月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田ハッピーライフセンター
所在地	秋田市将軍野桂町5-5
訪問調査日	平成25年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「ゆったりとした暮らし」「お互いを思いやり、寄り添った暮らし」「地域とのふれあいを大切に
した暮らし」を念頭に置き、入居者1人1人が居心地良く生活できるように配慮している。医療では、同一
敷地内にある、老人保健施設への連絡体制や相談が行える事や、自宅からのかかりつけ医を継続し
て利用し、病状の把握、安定に努めている。食事では、入居者と食材を買いに行ったり、献立の相談や
調理を職員と一緒にできる環境を作っている。入浴は毎日行っており、入居者の希望に応じて入浴で
きる体制を作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は2ユニットであるが、利用者に合わせて各ユニットの独自性を持った運営をしてい
る。利用者や職員は明るく穏やかで、文字通り理念を実践していることが伝わってくる。勉強
会や各種委員会の活動も活発に行なわれている。住宅地と離れているため、隣接の老人保
健施設の協力が大きい、合わせて地域協力員、運営推進委員の存在が事業所行事や災
害対策等にとって大きな力となっている。また、畑で育てた野菜を食卓に乗せたり、食材の買
出し等で日常的に外出するなど「季節感」を大切にして支援に取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分だったらどのように暮らしたいか」を職員で話し合い、事業所理念を作った。理念については、職員会議の中で共通認識ができるように話しあったり、玄関に掲示して常に意識できるようにしている。	25年3月、理念を見直し、さらに利用者に寄り添える理念を掲げている。ユニット会議等で繰り返し理解を深めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住宅地から離れており、交流が持ちにくい が、法人内のグループホームや老人保健施設の行事などに参加し交流が持てるようにしている。	婦人会の事業所行事への参加、地域協力員を中心とした餅つき慰問など、徐々につきあいの輪が広がりつつある。広報誌「あがつてたんせ」を年4回、地域全戸に配布、外にも小中高校、郵便局、スーパー、温泉などに配布している。	「地域貢献」について話し合いを深め、事業所側からも地域に対して積極的な取り組みをされることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	年4回、広報誌「あがつてたんせ」を発行し、認知症状への知識や対応方法などをお知らせしている。広報は、地域住民や居宅介護支援事業所などに配布し、認知症を理解してもらえるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、利用者様ご家族、地域住民、市の職員を招き開催している。活動内容や入居者の状況を報告し意見交換をしている。	行政の協力を得ながら、行事と抱き合わせで休日に開催することにより、利用者家族の参加を多く得られるように配慮している。地域協力員、運営推進委員と連携しながら意見交換を重ねて、サービスの向上に生かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での情報交換はもちろんだが、介護相談員の訪問を月2回受けており、事業所の実情や取り組みをお伝えしている。又、地域ケア会議に月1回参加し、地域の実情把握に努めている。	市町村とは利用者の一人ひとりの状況に応じて相談し、より良いケアにつなげている。毎月地域ケア会議に出席して情報交換をしているほか、月2回介護相談員制度を活用している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを作成し、勉強会で職員へ周知するようにしている。	身体拘束マニュアル、高齢者虐待防止マニュアルを整備し、勉強会やユニット会議で話し合いを重ねている。ベッドにセンサーを取り付け、夜間のみ使用することで、利用者の安全を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを作成し、勉強会で職員へ周知するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について、勉強会で職員へ周知するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時や介護計画書の説明時に、疑問や質問にお答えし、納得してもらえるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話等でご意見を聞く機会を作っている。又、ご家族様にアンケートを実施し、運営に反映できるようにしている。	毎月利用者一人ひとりの暮らしの様子を知らせる「ひだまり通信」を家族に送付している。また、アンケートを行ない、集計結果を利用者家族と運営推進会議に報告している。家族の面会や電話の機会を捉え、意向を汲むようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議等で意見交換し、業務改善に努めている。	月1回のユニット会議で、ケースや業務について活発に話し合われ、テーマ毎に委員会が設けられて活動している。職員は積極的に意見を出し、管理者のリーダーシップによってまとめられており、利用者の表情から穏やかな職場環境であることを知ることが出来る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で就業規則や給与規定を整備し、職場環境を整えている。又、短時間正職員制度や育児介護休業制度など働きやすい職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を設け、職員のスキルアップが図れるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で行われる、グループホーム同士の研修会に参加し、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前訪問を行い、本人のADLや要望を確認し、サービスにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前訪問の際や入居当日などに要望を確認し、サービスにつなげている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	マニュアルに沿って業務を行っているが、多くのことは決めず、入居者の行動によって臨機応変に接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者ごとに担当職員を決めており、入居者やご家族の意見を聞きながら対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人のお宅へ訪問したり、墓参りなどに出掛けたりしている。本人やご家族に伺いながら行っている。	利用者の生活暦が「暮らしの情報」にまとめられ、職員間で共有している。家族や親戚の来訪には側面から支援し、墓参・なじみの美容室の利用などを積極的に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者の間を取り持ち、関係が保たれるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談を受ける体制にある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護に対する意向を介護計画に反映し、本人やご家族が共有できるようにしている。	「暮らしの情報」を整備し、センター方式のアセスメント様式に記入することにより利用者の全体像を共有しながら支援している。従来からの畑作業や書道など趣味を継続できるように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴やサービス利用の経過などを伺い、状況把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや連絡ノートなどを利用し、現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを作成する際、本人やご家族から要望を伺っている。又、職員からも実際の生活において必要な支援など意見をもらい、介護計画を作成している。	介護計画は利用者家族の要望と、利用者の日々の暮らしに基づいて、計画作成担当者と利用者の担当職員が作成し、「連絡ノート」によって職員に周知されている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録や連絡ノートを活用し、情報を共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする				

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人やご家族の意見を聞きながら、地域資源を把握するように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅でのかかりつけ医を継続して受けられるようしている。必要時には歯科往診を受けられる体制にある。	入居前からのかかりつけ医を継続し、入院が必要なときは平鹿総合病院を利用している。かかりつけ薬局からは個人ごとに記名と分包済みのものを配達してもらっている。看護師による日々の健康管理のほか、隣接の老健施設からの応援も得られる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	敷地内にある老人保健施設の看護師と連携しており、必要時には相談や指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は、定期的に病院へ訪問し体調の把握に努めている。又、病院の看護師やソーシャルワーカーなどと連絡を取り、情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の際に事業所ができることは説明している。ターミナルケアについても行わない方針で、必要な状況が生じた際は、ご家族と相談し、必要な支援をしている。	入居時にターミナルケアを行わないことを伝え了承を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で救急時の対応方法などを確認している。又、緊急時対応マニュアルを作成し周知している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練と毎月の通報訓練を実施している。又、地域の協力員や隣接する老人保健施設との連絡体制を整えており、協力を得られる体制にある。	年2回の日中・夜間想定避難訓練と、毎月の通報訓練を行なっている。地震への対応も勉強会で取り上げている。災害時には隣接の老健施設はもとより、地域協力員を中心にした応援が得られる。スプリンクラー、自動火災通報装置等を設置し、発電機を準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者への言葉遣いや接し方について、1人1人に配慮した言葉がけに努めている。	出来る限り利用者本人の意向や意思決定を尊重する姿勢で、尊厳を持ってゆっくり静かに語りかけ、利用者の意向を待つ様子が繰り返されている。化粧や染髪している利用者も多く、腕時計や装身具を楽しむ人もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	献立の相談や衣類を選択してもらうなど、自己決定のできる機会が作れるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先になりがちだが、可能な限り本人の希望に沿えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	お化粧の習慣がある方は継続して行えるようにしている。又、髪形や服装など本人の希望に沿うようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者ごとにできる事を行ってもらえるよう支援している。又、季節行事や旬な物を提供できるよう努力している。	利用者に食べたいものを聞いたり、一緒にスーパーまで食材の買出しに出かけたりしている。食器洗いやテーブル拭きなど、利用者はできる部分に参加し、畑で季節の野菜を育てて食卓に乗せたりなどしている。年数回ファミレスで食事をしたり、行事(バーベキュー、夏祭り、芋煮会)を通じて、家族も参加し季節の食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者ごとにできる事を行ってもらえるよう支援している。又、季節行事や旬な物を提供できるよう努力している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きや義歯の清掃を行うようにしている。義歯は、洗浄剤を使用し清潔を保てるようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況をチェックし、誘導時間を考えたり、トイレでの排泄が継続できるように支援している。	利用者の排泄パターンをつかみながらトイレを使用することを目標に取り組んでいる。職員は常に利用者の自尊心に配慮しながら声がけ、誘導しており、改善されたケースがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便状況を確認し、便秘の把握に努めている。又、乳製品や食物繊維が取れるよう調理したり、必要に応じて下剤を使用し、便秘にならないようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴ができるように環境を整え、希望に応じて入浴ができるようにしている。又、同性介助の希望がある場合は、入浴担当を変更するなど臨機応変に対応している。	少なくとも一日おきには入浴していただきたいとしており、声がけ等を工夫しながら支援している。同性介助にも職員を交代するなど希望に沿う支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具など本人の習慣に合わせて対応している。又、状況に応じて休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局などからの処方内容を保管し、用法や効果などわかるようにしている。受診申し送り表を使用し、薬の変更時などは職員が分かるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課や役割など、1人1人に合わせて支援している。誕生日には好きな物を提供できるように配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	食材の買い出しやドライブに出かける機会が持てるようにしている。又、本人の希望を確認し、実現できるように支援している。	ホーム周辺の散歩や食材の買出しなどが日常的に行なわれ、お金を持っている利用者には職員が月一回程度確認している。菊祭り(横手)、花見(十文字)、紅葉狩り(小安峡)なども楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	状況に応じて、本人がお金を自己管理している。又、買い物の際には、自分で支払いできる方には行ってもらえるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関に公衆電話があり、自ら電話が可能の方は利用している。又、ご家族から電話があった際には、本人ともお話しができるよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や明るさに配慮し、不快や混乱を招かないようにしている。又、毎日行う体操の際には季節にまつわるお話をしたり、季節の歌を歌ったりしている。	天窓からやわらかい光が入り、窓からは車の流れや天候の移り変わりが直に感じ取れる共用空間である。花が飾られ、円形のテーブルも印象的である。随所に椅子やソファが置かれ、小上がりの和室もくつろげる空間になっている。全館床暖房とエアコンを使用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	共用空間にソファを置くなど環境に工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物の持ち込みが可能で、座いすや布団など使い慣れた物を使用している。	全室南向きで、各室は利用者に合わせて家具を配置している。位牌、写真、観葉植物、小筆筒、テレビ、冷蔵庫などを持ち込み、利用者一人ひとりの個性がうかがわれる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や食堂に手すりを配置し、安全に移動できるようにしている。又、居室内の配置も本人が安全に動きやすいように工夫している。		